

コミュニティ看護学

1. 領域構成教職員・在職期間

教授	長谷川 美香	1999. 4. 1～
教授	出口 洋二	1982. 4. 1～2020. 3. 31
教授	四谷 淳子	2016. 4. 1～
准教授	米澤 洋美	2008. 4. 1～
講師	北出 順子	2008. 4. 1～
講師	川口 めぐみ	2009. 4. 1～
助教	夏梅 るい子	2014. 4. 1～
助教	平井 孝治	2017. 4. 1～
助教	青木 未栄	2019. 4. 1～

2. 研究概要

研究概要

コミュニティ看護学分野は、地域看護学・環境科学・老年看護学・精神看護学の4領域から構成されている。

地域看護学では、地域で生活する人々および健康課題を持つ人々の心身の健康の維持・向上への支援に貢献できる看護学研究を目指している。前年度からの研究テーマを継続し、次のような研究活動を行っている。

1. バングラデシュ国 バイガサ地域の水・保健環境改善プロジェクト

本工学部、愛知医科大学、広島工業大学、AOSED (An Organization for Socio-Economic Development, Bangladesh) との協働により、バングラデシュの安全な水の確保と住民の健康改善に重点置いたフィールドワーク研究と国際協力を推進した。

2. 大学生のデートDV予防、DV相談支援体制の強化

親密な関係にある若者間のデートDV予防教育プログラムの開発及び、プログラム評価に用いるデートDVに関する態度を測定する日本語版尺度を開発した。これらの尺度を用い、大学生を対象としたデートDV予防教育プログラムの有用性を検証した。また、福井県のDV被害者の相談実態を全国と比較し、福井県のDV相談支援体制を考察した。

3. 職種チームで支える在宅医療・ケア実現のためのIPE（多職種連携実践教育）の推進

地域医療推進講座、地域医療プライマリケア講座、福井医療大学と共同でIPEセミナーを実施し、地域医療人の育成を推進した。

4. 低出生体重児の母親に関する研究

低出生体重児の母親の育児不安軽減のための育児支援構築を目的に、母親の育児不安の特徴の明確化に取り組んでいる。

5. 若年性認知症に関する研究

若年性認知症者の就労継続のための支援策構築を目的に、若年性認知症者の就労継続困難の実態と問題の明確化に取り組んでいる。

6. 退職後の団塊世代男性を対象とした介護予防の担い手養成プログラムの開発

シルバー人材センターに所属する団塊世代を中心とした退職後高齢者の社会参加と主体的健康づくりに関して、住民参加型アクションリサーチを用いて参加者の主体性や健康意識に対し経年的な変化を追跡している。

7. 健康づくり活動における地域住民と保健師の協働関係の解明

地域住民と保健師との協働関係に関して、現代のみならず戦前期に遡り記述化に取り組んでいる。具体的には、健康づくりを題材にした戦前・戦中期における保健師機能の明確化、および福井県美浜町と共に健康づくり活動の企画・推進・評価を行っている。

環境科学では、福井市湊地区社会福祉協議会の高木靖弘氏と共同で、平成16年福井豪雨の被災地区と非被災地区における社会福祉協議会会員165名に対して、在宅避難時の要望（環境面、物資面、被災者負担の偏在改善、弱者意見の反映改善、支援者の配置改善、支援情報、子供・要介護者の一時預かり、医療・福祉の相談支援窓口、女性専用相談窓口）について無記名自記式アンケートを実施し、被災の有無で要望に差異が認められるか検討した。

老年看護学では、高齢者が健やかに生活・療養できる環境の整備のために、工学系分野と連携するなど新しい技術を取り入れながら研究を進めている。

1. 寝たきり高齢者の褥瘡およびスキントピアを予防するシーツの開発

キーワード

看護、国際協力、低出生体重児、保健師活動の歴史、シルバー人材センター、豪雨災害、体圧分散、保湿ケア、統合失調症

業績年の進捗状況

【地域看護学】

1. バングラデシュ国 バイガサ地域の水・保健環境改善プロジェクト

改良版三角形太陽熱淡水化装置（TrSS）の形状が造水性能に及ぼす影響結果を踏まえ、現地住民のニーズに基づき、TrSSの再設計とTrSSの現地における造水シミュレーションを実施し、改良版TrSSの造水量UPを確認した（土木学会論文集にて公表）。また、TrSS導入前後の現地住民の塩分摂取量と血圧を継続的に測定した結果、TrSS導入後に有意な血圧低下がみられ、健康状態の改善が確認された（51th APACPH Conferenceにて発表）。

2. 大学生のデートDV予防、DV相談支援体制の強化

Justification of Verbal/Coercive Tactics Scale, Attitudes About Aggression in Dating Situationsの日本語版尺度を開発・活用し、大学生を対象としたデートDV予防教育プログラムの有用性を検証し、プログラム受講後の心理的DVに関する認識の有意な上昇傾向が確認された。また、福井県ではDV相談受理件数と一時保護件数間に有意な正の相関関係であったが、全国では有意な負の相関関係であり、福井県のDV被害者は一時保護が必要な状況になってから相談機関につながっている可能性を示唆された（World Nursing and Health Care Congressにて発表）。

3. 職種チームで支える在宅医療・ケア実現のためのIPE（多職種連携実践教育）の推進

嶺南地区での地域医療人育成のため、小浜病院での「在宅と施設と病院をつなぐ多職種連携セミナー」（54人参加）、若狭町での「若狭町生き抜くプロジェクト」

2回（計228人参加）を実施した。

4. 低出生体重児の母親に関する研究

低出生体重児の母親の育児不安の影響要因は育児に対する自己効力感であったことを明らかにした。

5. 若年性認知症に関する研究

若年性認知症者の就労・経済的・心理的問題、家族への影響があり、当事者の就労継続意欲があっても就労を諦める傾向があることを明らかにした。

6. 退職後の団塊世代男性を対象とした介護予防の担い手養成プログラムの開発

地方農村部のシルバー人材センターにおいて団塊世代を中心とした介護予防に関するグループを結成し組織全体の健康を考える取り組みに参画する活動の第2サイクル目の経過を追った。

7. 健康づくり活動における地域住民と保健師の協働関係の解明

保健師規則が制定された前後で保健指導の内容が変化していたことを明らかにした。また、同時期における国保保健婦のアプローチ方法は、農村部の住民・住民組織の特性に合わせたものであったことを当時の文献から示唆した。

【環境科学】

平成16年福井豪雨の被災地区と非被災地区における調査では、145名の有効回答を解析した結果、環境整備面において、非被災地区では男女別トイレよりも給水場を第1位とする要望が多かったが、被災地区では給水場と男女別トイレをともに整備する要望が多く、在宅避難時でも男女別トイレのニーズが給水場に劣らず大きいことが判明した。本研究は北陸公衆衛生学会誌第46巻1号（2019年10月）に資料として掲載された。

【老年看護学】

1. 寝たきり高齢者の褥瘡およびスキントピアを予防するシーツの開発

企業と連携し、新たな生地を開発を進めた。新たな生地は、一般的に使用されている綿（平織り）に比べて、摩擦係数・すれかみも低いことがわかった。生地の物性試験、寝床内環境試験を経て、製品化を進める。

2. ウレタンフォームマットレスのへたりと褥瘡発生の関係

附属病院褥瘡委員会と連携し、マットレスのへたり調査を実施した。さらにマットレスのへたりと褥瘡発生の関係を検証するため、附属病院スタッフと連携し計画立案をした。

特色等

【地域看護学】

主として保健師教育課程科目を担当している。学部教育では、ふくい看護論Ⅰ、ふくい看護論Ⅱ、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学展開Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護管理論、産業保健論、学校保健論、国際保健論、在宅看護論、公衆衛生看護学実習(県・市町村実習)、在宅看護学実習、地域ケア実習、および基礎専門科目である健康科学論等を担当している。また、卒業研究では、在宅看護、公衆衛生看護に関するテーマでの論文作成を指導している。

大学院教育では、地域看護学特論、地域看護学演習、地域看護学特別研究等の専門科目、及び共通科目である看護倫理、看護研究、災害看護専門看護師教育課程科目である災害看護学特論Ⅲ、がん看護学特論Ⅱ、がん看護学特論Ⅴの一部を担当し、老年看護専門看護師教育課程科目である老年看護学特論Ⅲ、老年看護学特論Ⅳの一部と老年看護学特論Ⅴを担当している。

研究においては科学研究費補助金、JICA事業予算を獲得し、バングラデシュ、福井県および県内の市町村と協力し研究を推進している。国際支援機関、地方自治体等と協働した研究を行うことにより、より具体的に当該国・自治体の健康づくりの施策化、および人材育成に貢献している。また、福井県の課題である在宅医療推進に向け、県内の医療機関と連携し活動を展開している。これらの成果は国内外の学会で発表し、研究成果を教育に還元している。

【環境科学】

地球温暖化に伴い、毎年甚大化する豪雨災害対策として、新型コロナウイルス感染症流行時では、避難所だけでなく在宅避難も検討する必要性が高まっている。本研究は、地区住民の弱者を支援する立場にある社会福祉協議会会員の在宅避難時における要望を、福井豪雨災害の被災の有無と比較し、被災地区では給水場のみならず男女別トイレの要望も高いことを見出した点が特色である。

【老年看護学】

学部教育では、老年看護学概論、老年看護学活動論、ライフサイクル論、ふくい看護論Ⅰ、ふくい看護論Ⅱ、老年看護学実習を担当している。卒業研究では、老年看護に関するテーマでの論文作成を指導している。

大学院教育では、老年看護学特論、老年看護学演習、老年看護学特別研究等の専門科目、および共通科目である看護研究を担当している。また、2019年4月から老年看護専門看護師教育課程を開講し、複雑で多様な健康問題をもつ高齢者とその家族が尊厳のある質の高い生活を送れるよう、多角的なアセスメント能力、QOL向上に向けた卓越した高度な看護実践能力をもつ人材の育成に貢献している。本課程において老年看護学特論Ⅰ-Ⅴ、老年看護学演習Ⅰ・Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ-Ⅲを担当している。

研究においては、高齢者のQOL向上を目標に褥瘡や排泄ケア等の老年症候群について予測、予防のための新たな看護方法論の創出に向け取り組んでいる。看護学だけでは解決できないと思われる課題を、工学系分野と連携し新しい技術を取り入れた手法を用いて解決を試みている。

【精神看護学】

学部教育では、精神看護学概論、精神看護学活動論、ライフサイクル論、精神看護学実習を担当している。また、卒業研究では、精神疾患をもつ方の再発予防および地域生活定着のための支援、精神疾患をもつ人の家族に関するテーマでの論文作成を指導している。

研究においては、精神疾患をもつ人の再発予防や地域生活継続に向けた支援、精神疾患をもつ人の家族支援をテーマに研究に取り組んでいる。特に、精神疾患をもつ人とその家族の困難からの回復力に着目し、その力を高めるための看護支援プログラムの構築に努めている。

本学の理念との関係

本学の中期計画である【2】地域の教育研究拠点としての機能を強化するため、教育・医療・産業界等との協力関係を戦略的に強化し、地域の教育力向上、健康を守る地域医療の向上を積極的に推進し、地域・社会の持続的発展に貢献するという点を考慮し、研究、教育、地域貢献を行っている。

【地域看護学】

研究では、「大学生のデートDV予防教育プログラムの開発に関する研究」(基盤研究(C))、「退職後の団塊世代男性を対象とした介護予防の担い手養成プログラムの開発」(基盤研究(C))、「住民と国保保健婦が協働した戦後健康づくり活動の過程と展開に関する歴史社会学的研究」(基盤研究(C))、「バングラデシュ国 バイガサ地域の水・保健環境改善プロジェクト」(JICA草の根協力事業)、低出生体重児の母親に関する研究等を行っている。

これらの教育・研究は、国内、県内地方自治体等と協働し、地域特性を鑑みたものである。特に学部教育では、実際に地域に出向き、住民と接することで地域の健康課題を見出す演習を設けるなど、地域により密着した教育を行っている。本学の中期目標にある『地域・社会へ貢献する実践的な研究を推進する』をまさに実践中である。

地域貢献としては、福井県、県内の市町村の各種委員会委員および委員長、専門職人、地域住民を対象とした研修会講師、DV被害を受けた女性の自助グループの活動支援等に携わっている。

【環境科学】

地球温暖化に伴い、毎年甚大化する豪雨災害対策として、新型コロナウイルス感染症流行時では、避難所だけでなく在宅避難も検討する必要性が高まっている。本研究は、地区住民の弱者を支援する立場にある社会福祉協議会会員の在宅避難時における要望を、福井豪雨災害の被災の有無と比較し、被災地区では給水場のみならず男女別トイレの要望も高いことを見出した点が特色である。

【老年看護学】

高齢者のQOL向上を目標に褥瘡や排泄ケア等の老年症候群について予測、予防のための新たな看護方法論の創出に向けた老年看護学の研究に取り組んでいる。看護学だけでは解決できないと思われる課題を、工学系分野と連携し新しい技術を取り入れた手法を用いて解決を試みている。

【精神看護学】

精神疾患をもつ人の再発予防および地域生活定着のための支援について医療・福祉・保健の専門職との連携や看護職の役割に関する研究・教育を行っている。

3. 研究実績

区分	編数		インパクトファクター(うち原著のみ)	
	2019年分		2019年分	
和文原著論文	4		—	
英文論文	ファーストオーサー	0	0 (0)	
	コレスポンディングオーサー	0	0 (0)	
	その他	0	0 (0)	
	合計	0	0 (0)	

(A) 著書・論文等

(1) 英文：著書等

a. 著書

b. 著書(分担執筆)

c. 編集・編集・監修

(2) 英文：論文等

a. 原著論文(審査有)

b. 原著論文(審査無)

c. 原著論文(総説)

d. その他研究等実績(報告書を含む)

- e. 国際会議論文**
- 19112001** Tomohiro Umemura, Hiroaki Terasaki, Mika Hasegawa, Yukinori Kusaka, Teruyuki Fukuhara, Fumio Kobayashi, Kohta Suzuki: Effect of a household approach with distillatory apparatus on salt intake and blood pressure in coastal area of Bangladesh, 51st APACPH Conference, 20191122
- 19112002** Mika Hasegawa, Junko Kitade, Ruiko Natsume: Current status of domestic violence counseling in rural Japan, World nursing and health care congress 2019, 42, 20191112
- 19112003** Akiyo Nakamoto, Hiromi Morioka, Midori Kawamura, Miho Katayama, Megumi Kawaguchi: Values Transformation of a Mid-Career Nurse Who Returned to Work After an Absence Due to Mental Health Disorders, Transnational Meeting on TEA, 20190915
- 19112004** Hiromi Morioka, Akiyo Nakamoto, Megumi Kawaguchi, Tomomi Katayama, Midori Kawamura, Miho Katayama: Changing the Ideal Model of Nurses to Nursing Students after Undergoing Comprehensive Practice, 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars, 66P, 202001
- 19112005** Megumi Kawaguchi, Hiromi Morioka, Akiyo Nakamoto, Midori Kawamura, Miho Katayama: Parents Action of Person with Schizophrenia: preparing for the Future of Children after Parents Pass Away, 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars, 65P, 202001
- 19112006** Kawamura M., Morioka H., Katayama M., Kawaguchi M., Nakamoto A.: Thoughts of Community-dwelling Individuals with Schizophrenia About Their Medications - A Pilot Study, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 170P, 201902
- 19112007** Manami Niiyama, Ruiko Natsume: Juvenile Dementia Feelings about working for a young person with dementia and their families, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 78 (P1-71), 202002
- (3) 和文：著書等**
- a. 著書**
- b. 著書（分担執筆）**
- c. 編集・編集・監修**
- (4) 和文：論文等**
- a. 原著論文（審査有）**
- 19112008** 加藤 隼也, 寺崎 寛章, 梅村 朋弘, 高橋 礼, 福原 輝幸, 長谷川 美香, 日下 幸則: 三角型太陽熱淡水化装置(TrSS)の造水シミュレーション—バングラデシュ沿岸部バイガサ地域の事例—, 土木学会論文集G(環境), 75(5), 155-163, 2019
- 19112009** 片山美穂, 北岡和代, 中本明世, 川村みどり, 森岡広美, 川口めぐみ: 抑うつ状態にある母親が子どもに感じる思いから辿る育児プロセス, 日本看護科学会誌, 39, 174-182, 20191113, DOI: <https://doi.org/10.5630/jans.39.174>
- 19112010** 米澤洋美: シルバー人材センターにおける健康管理, 地域ケアリング, 22(3), 68-71, 20200312
- 19112011** 田邊 将之, 富原 香奈子, 四谷 淳子: 超音波画像を用いた大腸内部に貯留する便の評価, 超音波テクノ, 31(2), 64-71, 2019
- b. 原著論文（審査無）**
- c. 総説**
- d. その他研究等実績（報告書を含む）**
- 19112012** 川口めぐみ, 長谷川美香, 平井孝治: Partnership Nursing System®を採用する精神科病棟に勤務する看護師のやりがい, 日本看護医療学会雑誌, 21(2), 13-21, 202002
- 19112013** 北出順子: ポピュレーションアプローチの誤解を解く, 保健師ジャーナル, 76(1), 12-17, 20200110
- 19112014** 高木靖弘, 出口洋二: 平成16年度福井豪雨の被災地区と非被災地区における社会福祉協議会会員の在宅避難時の要望について, 北陸公衆衛生学会誌, 46(1), 22-27, 20191031
- e. 国際会議論文**
- (B) 学会発表等**
- (1) 国際学会**
- a. 招待・特別講演等**
- b. シンポジスト・パネリスト等**
- c. 一般講演（口演）**
- 19112015** Tomohiro Umemura, Hiroaki Terasaki, Mika Hasegawa, Yukinori Kusaka, Teruyuki Fukuhara, Fumio Kobayashi, Kohta Suzuki: Effect of a household approach with distillatory apparatus on salt intake and blood pressure in coastal area of Bangladesh, 51st APACPH (Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health) Conference, Bangkok(Thailand), 20191122
- d. 一般講演（ポスター）**
- 19112016** Mika Hasegawa, Junko Kitade, Ruiko Natsume: Current Status of Domestic Violence Counseling in Rural Japan, World Nursing and Health Care Congress 2019, Las Vegas, 20191112, 42
- 19112017** Kawamura M., Morioka H., Katayama M., Kawaguchi M., Nakamoto A.: Thoughts of Community-dwelling Individuals with Schizophrenia About Their Medications - A Pilot Study, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka, 202002
- 19112018** Megumi Kawaguchi, Hiromi Morioka, Akiyo Nakamoto, Midori Kawamura, Miho Katayama: Parents Action of Person with Schizophrenia: preparing for the Future of Children after Parents Pass Away, 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars, Chiang Mai(Thailand), 20200110
- 19112019** Hiromi Morioka, Akiyo Nakamoto, Megumi Kawaguchi, Tomomi Katayama, Midori Kawamura, Miho Katayama: Changing the Ideal Model of Nurses to Nursing Students after Undergoing Comprehensive Practice, 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars, Chiang Mai(Thailand), 20200110
- 19112020** Akiyo Nakamoto, Hiromi Morioka, Midori Kawamura, Miho Katayama, Megumi Kawaguchi: Values Transformation of a Mid-Career Nurse Who Returned to Work After an Absence Due to Mental Health Disorders, Transnational Meeting on TEA, Osaka, 20190915
- 19112021** Manami Niiyama, Ruiko Natsume: Juvenile Dementia Feelings about working for a young person with dementia and their families, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 大阪市, 20200228
- e. 一般講演**
- f. その他**

(2) 国内学会 (全国レベル)

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

19112022 四谷 淳子: ワークショップ 泌尿器 2 多職種への泌尿器超音波の普及・教育の工夫～看護学生へのエコーを活用した教育の取り組み～, 第92回日本超音波医学会学術集会, 品川区, 20190524

19112023 四谷 淳子: 褥瘡対策用具を5つの視点で対策する, 第21回日本褥瘡学会学術集会, 京都市, 20190824

c. 一般講演 (口演)

19112024 梅村朋弘、寺崎寛章、長谷川美香、日下幸則、大西一成、小林章雄、鈴木孝太: 塩害に悩むバングラデシュ南部デルタ地帯の村に導入した太陽熱淡水化装置の効果, 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知市, 20191023, 日本公衆衛生雑誌 第78回日本公衆衛生学会総会抄録集, 66(10), 259, 20191010

19112025 北出順子、川上裕子、長谷川美香、夏梅るい子、柏谷美有紀: 国民健康保険法成立当時の地域住民の暮らしと国保保健婦の役割, 第59回全国国保地域医療学会学術集会, 長崎市, 20191005

19112026 夏梅るい子、長谷川美香、北出順子: 低出生体重児を育てる母親の育児不安の特徴に関する研究～NICU入院中と退院後の比較、成熟児との比較～, 全国国保地域医療学会, 長崎市, 20191005

19112027 藤原英利子、長谷川里紗、兵田菜、大井美果、中西 悠、山本英子、北出順子、長谷川美香: 地域における塩分摂取量の変化に基づく健康増進計画の対策, 第59回全国国保地域医療学会学術集会, 長崎市, 20191005

19112028 米澤洋美、秋原志穂: 地方農村部シルバー人材センター会員の抱える現在と将来の心配事 ～性・年代別の比較～, 第50回日本看護学会-ヘルスプロモーション-学術集会, 住民が拓く新時代, 長野市, 20190919, 第50回日本看護学会-ヘルスプロモーション-抄録集, 79, 20190819

19112029 秋原志穂、藤村一美、米澤洋美: 保健師からみたあいりん地区結核患者の特徴, 第94回日本結核・非結核性抗酸菌症学会学術集会, 大分市, 20190607, 4(3), 287, 20190301

19112030 平井孝治: 自閉スペクトラム症男児の血漿中リポ蛋白リパーゼの検討, 第46回日本脳科学会, 大津市, 20191116

d. 一般講演 (ポスター)

19112031 大野晃裕、加藤隼也、古市健二、寺崎寛章、梅村朋弘、福原輝幸、長谷川美香、日下幸則: 太陽熱淡水化装置の形状が造水性能におよぼす影響, 土木学会第74回年次学術講演会, 高松市, 201909

19112032 長谷川美香、北出順子、夏梅るい子: X県におけるDomestic Violence (DV) 相談の実態と特徴, 全国国保地域医療学会, 長崎市, 20191005

19112033 中本明世、片山美穂、川村みどり、森岡広美、川口めぐみ: メンタルヘルス不調による離職経験をもつ看護師の価値変容プロセス一観点における発生の三層モデルを用いた分析を試みて, 日本質的心理学会第16回大会, 東京都港区, 20190921

19112034 川口めぐみ、長谷川美香、平井孝治: 精神科病棟に勤務する看護師のやりがいの構造, 第39回日本看護科学学会学術集会, 金沢市, 201912

19112035 川口めぐみ、平井孝治: 統合失調症をもつ人のきょうだいにに関する国内文献の検討, 日本看護研究学会学術集会, 大阪市, 201907

19112036 水上喜美子、川口めぐみ、田中悠二、東間正人: 地域における認知症の早期発見に向けた継続的な集団検診について 永平寺町健康長寿プロジェクトからの検討, 第34回日本老年精神医学会, 仙台市, 201906

19112037 山本英子、北出順子、長谷川美香: ポピュレーションアプローチを活用した特定健診受診率向上への取り組み, 第50回日本看護学会-ヘルスプロモーション-学術集会, 長野市, 20190920

19112038 北出順子: 「保健婦規則」制定前後の保健婦教本における保健指導, 第18回日本看護技術学会, 福井市, 20190908

19112039 村田智成、中島正喜、牧田和恵、河原愛、石塚匡晴、西谷真澄、米澤洋美: 精神科急性期病棟における精神科特有の看護技術 ～他科での看護経験との比較～, 第50回日本看護学会-精神看護-学術集会, 福井市, 20190831

19112040 米澤洋美、石垣和子: 地方農村部シルバー人材センターにおける健康づくり活動企画運営委員の変化, 第39回日本看護科学学会学術集会, ヒトと人間の科学を看護へ, 金沢市, 20191130, 第39回日本看護科学学会学術集会, 20191130

19112041 加納 恭子、四谷 淳子、青木 未来: 特定機能病院における医療関連機器圧迫創傷の予防ケアと組織体制の実態, 第37回日本ストーマ・リハビリテーション学会総会, 静岡市, 20200208

19112042 高森 巳早都、高瀬 伊佐子、加納 恭子、藤田 久美子、四谷 淳子: 急性期病院に入院するBPSDを伴う中等度認知症高齢者に対する退院支援の実践状況についての検討, 第18回日本看護技術学会学術集会, 福井市, 20190908

19112043 加納 恭子、四谷 淳子: NPPVマスクによるMDRPU予防管理での看護師の困難感, 第21回日本褥瘡学会学術集会, 京都市, 20190825

19112044 新山真奈美、夏梅るい子: 若年認知症と家族の就労に関する思い, 日本認知症ケア学会, 京都市, 20190525

e. 一般講演

f. その他

19112045 四谷 淳子: 褥瘡予防における体圧分散の可能性を考える, 第18回日本看護技術学会学術集会, 福井市, 20190908

19112046 四谷 淳子: 必見! 褥瘡予防のためのベッド活用術, 第21回日本褥瘡学会学術集会, 京都市, 20190823

19112047 青木未来: 理事会企画5 国際交流委員会 国際学会デビューの秘密/理由(わけ) ～APETNA台湾2019は最初の一步～ 「はじめて国際学会に参加して③WUWHS」, 第28回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 奈良市, 20190525

(3) 国内学会 (地方レベル)

a. 招待・特別講演等

19112048 四谷 淳子: 教育講演, 体圧分散寝具と寝床内環境の原点回帰, 第15回日本褥瘡学会中部地方学術集会, 金沢市, 20190310

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演 (口演)

d. 一般講演 (ポスター)

e. 一般講演

f. その他

(4) その他の研究会・集会

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

19112049

北出順子：「脳卒中」はどう記述されてきたか—明治期医学書からの検討—，医学史研究会総会，京都市，20190615

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

19112050

四谷 淳子：在宅褥瘡セミナー，日本褥瘡学会主催セミナー，函館市，201909

(C) 特許等

区分	内容（発明の名称）	発明者又は考案者
特許権	診断装置及び診断方法	田邊 将之 四谷 淳子

(D) その他業績

4. グラント取得

(A) 科研究費・研究助成金等

区分	プロジェクト名	研究課題名	代表者名	分担者名	期間（年度）	金額（配分額）
区分	研究種目	課題名	代表者名	分担者名	期間（年度）	金額（配分額）
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	大学生へのデートDV予防を目的とした系統的な教育プログラムの開発	長谷川 美香	米澤 洋美、北出 順子、川口 めぐみ	2019	1040000
文部科学省科学研究費補助金		退職後の団塊世代男性を対象とした介護予防の担い手養成プログラムの開発	米澤 洋美	長谷川美香、北出順子、秋原志穂	2019	
文部科学省科学研究費補助金	若手研究(B)	統合失調症者の家族レジリエンスを高めるための看護支援プログラムの開発	川口 めぐみ		2019	260000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究	住民と国保保健婦が協働した戦後健康づくり活動の過程と展開に関する歴史社会学的研究	北出 順子	長谷川 美香、米澤 洋美	2019	650000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	大学生へのデートDV予防を目的とした系統的な教育プログラムの開発	長谷川 美香	米澤 洋美、北出 順子、川口 めぐみ	2019	
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	退職後の団塊世代男性を対象とした介護予防の担い手養成プログラムの開発	米澤 洋美	長谷川 美香、北出 順子、秋原 志穂	2019	
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	退職後の団塊世代男性を対象とした介護予防の担い手養成プログラムの開発	米澤 洋美	長谷川美香、北出順子、秋原志穂	2019	1820000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	大学生へのデートDV予防を目的とした系統的な教育プログラムの開発	長谷川 美香	米澤 洋美、北出 順子、川口 めぐみ	2019	
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	住民と国保保健婦が協働した戦後健康づくり活動の過程と展開に関する歴史社会学的研究	北出 順子	長谷川 美香、米澤 洋美	2019	
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	住民の社会文化的背景に基づく保健師による個別支援方法の開発	石垣和子	山本 晴恵、米澤 洋美、阿川啓子、曾根志穂、金子 紀子、大湾 朋美、宮崎 美砂子、塚田 久恵	2019	117000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	エコーを用いた褥瘡の肉芽組織の客観的評価方法の確立と自動判別システムの構築	四谷 淳子	田邊 将之	2019	3120000
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	摂食障害の子どもをもつ親に対する簡易版心理教育の効果検証	平井 孝治		2019	1560000
文部科学省科学研究費補助金	研活動スタート支援	高齢者のドライスキン改善のための簡易的皮膚アセスメント法の開発	青木 未来		2019	1560000

(B) 奨学寄附金

受入件数	1
受入金額	360000

5. その他の研究関連活動

(A) 学会開催等

区分	主催・共催の別	学会名	開催日	開催地
----	---------	-----	-----	-----

(B) 学会の実績

学会の名称	役職	氏名
日本公衆衛生学会	モニタリングレポート委員会 健康危機管理モニタリングメンバー(その他)	長谷川 美香
日本在宅ケア学会	一般会員	長谷川 美香
INTERNATIONAL COLLABORATION FOR COMMUNITY HEALTH NURSING RESEARCH	一般会員	長谷川 美香
日本看護医療学会	一般会員	長谷川 美香
日本公衆衛生看護学会	一般会員	長谷川 美香
日本家族看護学会	一般会員	長谷川 美香
日本保健科学学会	一般会員	長谷川 美香
American Public Health Association	一般会員	長谷川 美香
日本看護研究学会	一般会員	長谷川 美香
北陸公衆衛生学会	一般会員	長谷川 美香
日本地域看護学会	代議員	長谷川 美香
日本看護科学学会	一般会員	長谷川 美香
日本公衆衛生学会	日本公衆衛生学会モニタリングレポート委員会 健康危機管理モニタリングレポート(健康危機管理、保健所・衛生行政・地域保健)グループメンバー(評議員)	長谷川 美香
心理教育・家族教室ネットワーク	一般会員	川口 めぐみ
日本精神障害者リハビリテーション学会	一般会員	川口 めぐみ
日本精神保健看護学会	一般会員	川口 めぐみ
日本家族看護学会	一般会員	川口 めぐみ
日本精神科看護技術協会	一般会員	川口 めぐみ
日本看護研究学会	一般会員	川口 めぐみ
医学史研究会	一般会員	北出 順子
日本保健医療社会学会	一般会員	北出 順子
日本高血圧学会	一般会員	北出 順子
日本ケアマネジメント学会	一般会員	北出 順子
日本循環器病予防学会	一般会員	北出 順子
日本公衆衛生学会	一般会員	北出 順子
日本地域看護学会	一般会員	北出 順子
北陸公衆衛生学会	一般会員	北出 順子
日本公衆衛生看護学会	一般会員	米澤 洋美
日本公衆衛生学会	一般会員	米澤 洋美
日本地域看護学会	一般会員	米澤 洋美
日本公衆衛生看護研究会	一般会員	米澤 洋美
日本看護科学学会	一般会員	米澤 洋美
日本微量元素学会	評議員	出口 洋二
日本栄養改善学会	評議員(評議員)	出口 洋二
福井県母性衛生学会	理事(理事)	出口 洋二
北陸公衆衛生学会	評議員(評議員)	出口 洋二
日本衛生学会	評議員(評議員)	出口 洋二
日本公衆衛生学会	一般会員	出口 洋二
日本薬学会	一般会員	出口 洋二
日本超音波医学会	一般会員	四谷 淳子
看護理工学会	評議員	四谷 淳子
日本創傷・オストミー・失禁管理学会	評議員	四谷 淳子
日本褥瘡学会	評議員	四谷 淳子
日本公衆衛生看護学会	一般会員	夏梅 るい子
日本地域看護学会	一般会員	夏梅 るい子
北陸公衆衛生学会	一般会員	夏梅 るい子
日本認知症ケア学会	一般会員	夏梅 るい子
日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会	一般会員	青木 未来
日本看護技術学会	一般会員	青木 未来
日本老年看護学会	一般会員	青木 未来

(C) 座長

国内学会	学会名	氏名
一般講演(口演)	日本看護学会—精神看護—	川口 めぐみ
一般講演(ポスター)	第8回日本公衆衛生看護学会	米澤 洋美
一般講演(口演)	第39回日本看護科学学会学術集会	米澤 洋美
招待・特別講演等	第66回日本栄養改善学会学術総会	出口 洋二
招待・特別講演等	第49回日本創傷治癒学会学術集会	四谷 淳子
シンポジウム等	第50回日本看護学会—精神看護—学術集会	四谷 淳子

(D) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	委員長(主査)・委員	氏名
保健師教育	委員	長谷川 美香
日本地域看護学会誌	委員	長谷川 美香

(E) その他

- 19112051 北出 順子: 敦賀3人遺体 背景にある問題は(NHK福井放送局), 20191125
- 19112052 北出 順子: 敦賀・親子3人遺体 悩む介護者深まる孤立 県内事件相次ぐ 識者「実態把握と新施策を」(福井新聞), 20191121
- 19112053 米澤 洋美: 「タイムリーふくい」〜もう限界…老老介護〜(福井テレビ), 20191201
- 19112054 四谷 淳子: 床ずれ予防シート開発(福井新聞), 20191122